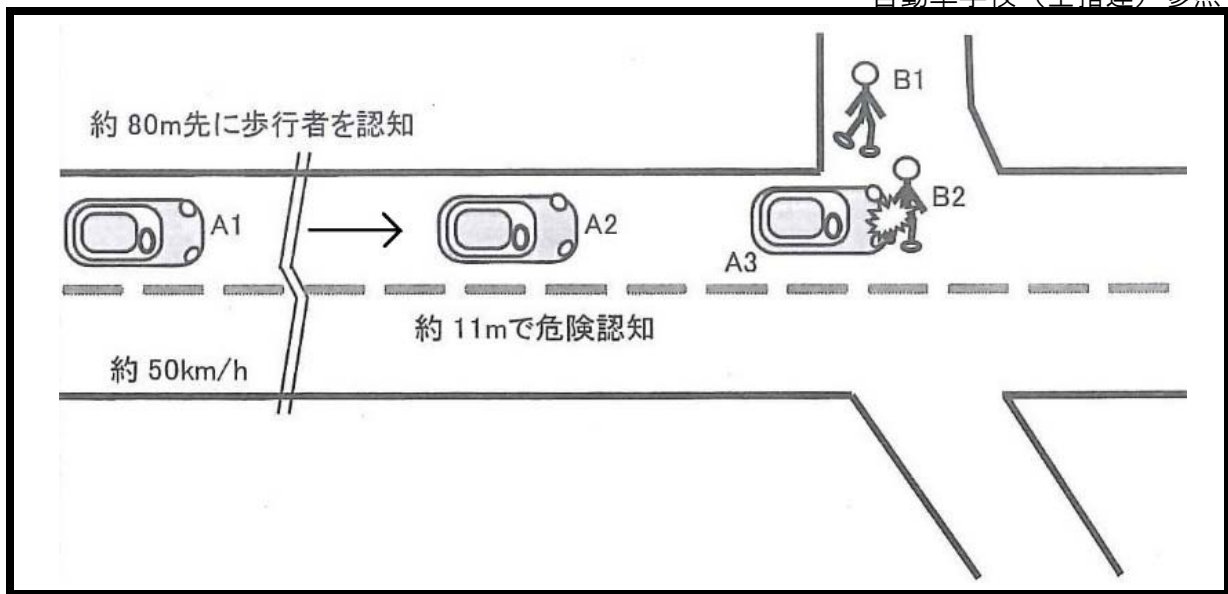


■事故の概況

自動車学校（全指連）参照



事故類型：横断中

発生日時：5月 午後6時30分頃 晴れ

当事者A：四輪車 20歳代 男性

当事者B：歩行者 70歳代 男性

■ 事故の概要

Aは、毎日通行する道路を、ライトを点灯しないで時速約50kmで走行していました。約80m前方の道路左側にBを発見し、A車からBがよく見えるので、BはA車が通り過ぎるまで道路を渡ることはないと判断しました。Aは、目が痒くなったので目を擦り、視線を前方に戻したとき、前方約11mの道路中央付近を渡っているBに気がつき、急ブレーキをかけ、ハンドルを左に切ましたが、間に合わずBと衝突してしまいました。

■ 事故から学ぶ

5月のこの時間帯は、いわゆる薄暮時間帯に相当します。この時間帯では、屋外の明るさが急激に変化し、空はまだ明るいのに地上は既に暗くなり、ものが見えにくくなります。とりわけ高齢者など、視力の衰えがある人にとっては一層見えにくくなります。一方、比較的若い人にとっては、まだまだ明るく自分はよく見えるので、他の人もよく見えていると思い込んでしまうことが多いのです。

このように、薄暮時には、暗くて辺りがよく見えなくなった人と、まだ、ライトの点灯は必要無いと思っている比較的若い運転者が混在するところに問題があります。従って、早めの点灯による被視認性の向上は、特に高齢歩行者の事故防止には有効と考えられています。